「北海道オホーツク地域における小児の種々の病原体に対する抗体保有率調査」に関するオプトアウト

網走厚生病院院長　梶野浩樹

研究の目的は，オホーツク地域における小児の年代別の種々の病原体に対する抗体保有率とそのワクチン歴や生活環境を検討し，地域の小児に対して感染予防策を提言することです．先行研究として当地域の小児におけるトキソプラズマに対する抗体保有率を検討し，その率の高さが判明したことによって感染予防の注意喚起の強化に繋げることができました．つまり，小児の年代別の種々の病原体に対する抗体保有率を調査することは，有効な感染予防策を講じるための第一歩なのです．

対象の患者さんは，当院の小児科外来を受診し，原疾患に対して採血検査が必要となった方．研究期間は 2025 年 6 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日です．この研究の内容を説明し，承諾を得られた場合，生活環境の問診を行うとともに検査科に残る血清を測定業者に提出，その結果から抗体保有率を求め，生活習慣とあわせて評価し，地域における感染予防策を提言します．

参加者（代諾者）に研究内容を書面で説明します．同意文書や同意撤回文書も呈示します．
研究終了後も情報は 5 年間保存され，その間参加者から抗体価の結果を求められる場合は説明します．血清は 5 年後に当院検査科あるいは測定業者により廃棄されます．生活環境情報や血清検体は匿名化されます．研究結果は日本小児科学会などの学術集会や雑誌に発表される予定です．公表時にも参加者の個人情報保護には十分配慮されます．個人情報の漏洩以外に，研究への不承諾や同意撤回で不利益は生じません．被検者に直接的な利益は生じませんが，研究成果は有効な感染予防策を講じる一助となり，将来の医療の進歩に貢献できると考えています．

研究の相談窓口は研究責任者である網走厚生病院院長の梶野浩樹です．

以上．